

弊社の書籍をご利用いただき、有難うございます。
 上記の書籍について、誤りが判明致しましたため、訂正のうえご利用ください。
 ご迷惑をおかけし誠に申し訳ございません。

| ページ | 該当箇所 | 誤 | 正 |
|--------------|---------------------|---|---|
| 問題編30 | 2.最適セールス・ミックスの決定 | B(①と②) = (,) $70 \times () + 80 \times () = ()$ C(①と③) = (,) $70 \times () + 80 \times () = ()$ D(横軸と③) = (40, 0) $70 \times 40 + 80 \times 0 = 2,800$ | B(②と③) = (,) $70 \times () + 80 \times () = ()$ C(横軸と③) = (40, 0) $70 \times 40 + 80 \times 0 = 2,800$ |
| 問題編43 | 2.(2) * 1 | 純売上高差異 | 総売上高差異(または総販売数量差異) |
| 問題編44 | 1行目 | 純売上高差異 | 総売上高差異 |
| | ボックス内 | 組合せ差異 | 総売上高差異 |
| | | 純売上高差異 | 組合せ差異 |
| 解答解説13 例4 | 5・6行目 | $(1)x + (0.5)y \geq 50$ $(1)x + (3)y \geq 90$ | $(1)x + (0.5)y \leq 50$ $(1)x + (3)y \leq 90$ |
| | 7・8行目 | $x \geq 40$ $y \geq 40$ | $x \leq 40$ $y \leq 40$ |
| | 11～13行目 | (2)最適な製品組み合わせ 製品X 40個 製品Y 20個 | (2)最適な製品組み合わせ 製品X 39個 製品Y 17個 |
| | グラフの下2行目～ | 最適な生産・販売量の組合せとなるのは上記A、B、C、Dのいずれかです。 | 最適な生産・販売量の組合せとなるのは上記A、B、Cのいずれかです。 |
| | 下から9行目～ | B(②と③) = (40, 16) $70 \times (40) + 80 \times (16) = (4,080)$ C(横軸と③) = (40, 0) $70 \times 40 + 80 \times 0 = 2,800$ ※B点のy(16個)について:小数点以下を切り捨てます。 したがって貢献利益が最大になるのはB点です。 | B(②と③) = (39, 17) $70 \times (39) + 80 \times (17) = (4,090)$ C(横軸と③) = (40, 0) $70 \times 40 + 80 \times 0 = 2,800$ したがって貢献利益が最大になるのはB点です。 |
| 解答解説14 | 例4の解説 5行目 B点の求め方 | $x + 3y = 90 \dots \textcircled{2}$ $x = 40 \dots \textcircled{3}$ ②に $x = 40$ を代入すると $40 + 3y = 90$ $y = 16.66 \dots \rightarrow 16$ (生産単位は整数のため) | $x + 3y = 90 \dots \textcircled{2}$ $x = 40 \dots \textcircled{3}$ ②に $x = 40$ を代入すると $40 + 3y = 90$ $y = 16.66 \dots \rightarrow 16$ (生産個数は整数のため、端数切捨て) この端数切捨てにより、 $(x, y) = (40, 16)$ のときには、生産能力に余力が生じます。 そこで、貢献利益を $(x, y) = (39, 17)$ のときと比較します。 (40, 16) のとき: $70 \times 40 + 80 \times 16 = 4,080$ 円 (39, 17) のとき: $70 \times 39 + 80 \times 17 = 4,090$ 円 以上より、B点を $(x, y) = (39, 17)$ とみなします。 |